

“至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2019年度 第9号

臨時休校中？春休み中？ですが元気ですごしているのでしょうか。2月28日、全く突然に臨時休校になり、皆さんもでしょうが、こちらの方も詳しいことが決まっていな中でバタバタと休業に入ってしまった。表彰式の最後に1、2年生に休業中の過ごし方を話したのが（後から考えて）それが最後の皆さんとの時間だったことに気づきました。今、この校長便りを書いている時点でもこの休業や自宅待機等がいつまで続くのか、我々もまったくわかっていません。ただ、言えるのは修了式を行うことや離任式を行うことはできないこと（離任式は年度が改まってから実施する可能性はあるかもしれませんが）、今度、皆さん全員が顔を合わせるのは4月8日の始業式になること（それさえも現時点ではどうなることか）だけです。たぶん、部活動もできない今の状態は皆さんにとってもストレスのかかる毎日だと思います。しかし、生徒の健康第一を考えるのは当然のことですし、皆さんが健康だけではなく、おうちでの感染を防ぐことも言うまでもないことです。特に高齢の方々への感染防止は必須です。明けない夜はないように、コロナウイルスの感染もいつかは終息します。いましばらくは我慢して、4月からの新学期に備えてください。3月中、唯一全員が（バラバラですが）登校する教科書販売の日、私の最後の「校長便り」になるこの書面をもって修了式、そして最後の5分間のあいさつにしたいと思います。

これまでキャリア教育について様々なことを語ってきました。詳しくはこれまでの「至誠」やHPにも過去の便りを掲載してもらっているので良ければ読み返してほしいのですが、私の考えるキャリア教育の本質は「社会で生きる力を鍛える」ことです。

社会の変化のスピードは急速です。AI社会の到来、グローバルな世界、Society5.0と呼ばれる新たな局面。いまだにスマホも持たず、駅で切符を買って列車に乗っているような私からするといつ何が変わっていったのかも把握できていない状態の中でおろおろおろするしかありません。60歳が定年だと言われ、それを目標にやってきたらこれからは定年延長で65歳まで働くように舵を切られたかと思う間もなく、70歳まで働く法案が（私からすれば）あっという間に国会を通過してしまいました。皆さんに身近な商業の教育や女子にとって花形だった事務系の仕事も「それはAIができることとかぶってしまうから今後は厳しいよ」と言われますが、もちろんすでに皆さんもそのことは感じとっているところでしょう。

先日も書いた経済アナリストの中原圭介氏の言葉「今後の社会では70歳まで働き、その間に3つの会社を経験する」というのもオーバーではなくなってくるかもしれません。そのためには一つのスキル、一つの能力だけでは社会を渡っていくには厳しい。中原氏は最低3つの能力を身に着けるべきだと言います。特に、今後重視されるのは、課題を発見し、それを解決していく力、論理的に考える力、読解力を含めたコミュニケーション能力などでしょう。

その力をつけるために主体的に様々な経験を積み、積極的に行動することも求められます。そう、これまでこの通信の中で幾度も述べてきたことばかりです。残された高校生活の中でも外部や社会、地域との連携の中で「ホンモノ体験」を積んでください。四日市商業の生徒は本当に2年から3年の1年間で大きく成長する。これは私がこの2年間、皆さんの姿を見てきた中でものすごく感じたことです。3年生で行う「課題研究」や「システムマネジメント」などの探究学習がそれに寄与していることは間違いないでしょう。だからこそ、1年生の皆さん、3年生になるのを待たず、2年生のうちから実践と経験を積んでください。校内での活動でも文化祭や体育祭のみならず、日ごろのあいさつや掃除、登下校のマナーなど「気づきと観察」学習はできるはずです。

また、忘れてはいけません。高校時代で学びを終えるのではなく、大学や短大、専門学校、社会に出てからも学び続けること。これが皆さんが将来社会で活躍していくポイントです。読書やOJT（仕事の中での学びと発見）、研修会や講演会への参加、市民講座や社会人大学、探してみればいたるところに学びの場はあります。ところが、アジア・オセアニアの人たちの中でも日本はこのような自主的な学びを実践する人たちが最も少ないというデータが出ています。

社会はすでに変わってきているし、これから先も間違いなく大きく変わっていきます。お別れにあたって、ぜひとも皆さんには「主体的に、積極的に学ぶこと」「学び続けること」をメッセージとして伝えたいと思います。私自身も3月末で定年退職を迎えますが、引き続き仕事をしながら大学院で新しいことを学んだりこれまで実践してきたキャリア教育、アクティブラーニング、論理コミュニケーション、地域連携などを学びなおし発展させたりしていきたいと思っています。ぜひ一緒に頑張りましょう。皆さんの輝かしい未来を祈念して最後の私のあいさつとさせていただきます。

保護者の皆様へ。四日市商業では2年間の勤務でしたが、本当にお世話になりました。この2年間も含めて教員生活38年間、こんな自分勝手な私がなんとかやってくることができたのは本当に周りの皆様のおかげです。いろいろご協力いただきました。無理も申し上げました。ありがとうございました。

私は世の中、「運」と「縁」と「出会い」だと思っているのですが、この3つに恵まれて幸せな教員生活を送ることができました。これまで出会ったひとり一人の方々に心から感謝いたします。4月以後も四日市を中心にして働きますし、公立高校という場は離れますが引き続き教育に関与し、この地域の発展や若者の成長に貢献していきたいと思っています。また、何かの機会がありましたらよろしく願います。

(3月23日)